

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	3972500577		
法人名	社会福祉法人 香南会		
事業所名	グループホーム ひのきの里		
所在地	高知県高岡郡津野町黒川740番地6		
自己評価作成日	平成29年5月1日	評価結果 市町村受理日	平成29年8月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当事業所は国道から川を隔てた高台の中学校跡地にあり、同一法人のデイサービスが隣接しています。茶畑や民家も近く、これまでの生活を継続できる自然環境にあります。事業所の理念にある「共に支えあい、笑顔の見える、穏やかな生活」を実現するため保育所や小学校、中学校、地域住民とのふれあいを大切にし、地区の秋祭りや小学校で行われるふるさと祭りへの参加や、保育園児、小学生、中学生やボランティアの訪問の機会を増やし交流を図っています。また、事業所イベントとしては秋祭りを開催し、地域の方にご案内し、認知症専門事業として広く知ってもらい機会づくりをしています。四季に合わせたイベントを企画し五感を感じていただけるような支援や雰囲気づくりを提供しています。その人らしい暮らしの実現に向け、職員一同、利用者本位の支援の向上に努めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaijokensaaku.mhlw.go.jp/39/index.php?action=kouhyou_detail_2016_022_kihontrue&ji_gyosyoCd=3972500577-00&PrefCd=39&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	高知県社会福祉協議会
所在地	〒780-8567 高知県高知市朝倉戊375-1 高知県立ふくし交流プラザ
訪問調査日	平成29年6月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の周辺は自然環境に恵まれ、近隣に民家もあり地域との交流を大切にしている。同一法人のデイサービス事業所が隣接し、友人・知人と会話する機会にもなっている。保育園・小学校・中学校の運動会に利用者と職員が参加し、また園児等も事業所を訪問し、芋堀りや似顔絵をプレゼントする等の交流が継続している。事業所の誕生会やイベントでは、地域の婦人部がボランティアをしている。昨年秋祭りの新規事業に取組み、中学生の神楽の舞い等で地域から大勢の参加があった。

これまでの地域との相互関係から、認知症の人への理解を深める取組みが進んでいる。事業所理念は職員間で共有し、利用者や家族の笑顔の見える支援ができるよう、法人の内部研修や外部研修を有効に活用して、常に職員の資質を高める努力をしている事業所である。

自己評価および外部評価結果

ユニット名:えびね棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とできるような取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合い、生かせるように取り組んでいる。	開設から12年で、平成18年度の制度改正時には、職員相互で理念の振り返りをした。事業所が地域と共に暮らし続ける支援を法人の基本方針に掲げ、玄関に理念と基本方針を掲示して、地域の人や家族の理解を得る工夫をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、小・中学生に訪問していただき交流を深めている。デイサービス利用者とも交流できている。近所からの野菜等の差し入れもある。避難訓練には地域への声かけも参加してもらっている。	未加入の町内会にも年末の総会には参加して、交流を図っている。神祭やふるさと祭り、保育園、小中学校の運動会には利用者と職員で出向き、また園児や生徒も事業所を訪問する交流を続けている。近隣からお茶や野菜のお裾分けがある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の御家族の方や病院の医療相談員、居宅介護支援事業所からの相談なども受けている。また、地域ケア会議にも積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内部監査や実地指導等の結果も報告している。会議で出た意見や検討事項については職員会で報告し、検討している。頂いた意見に対しては実行できるように取り組み、次の会で経過報告をしている。	メンバーは家族2名、行政から担当課と包括支援センター、地域から民生委員となっている。利用者は年2回出席している。議事録は玄関に掲示し、来客者への周知に工夫をしている。事業所に来られない家族には、議事録の送付を検討している。	事業所の理念実践を目指し、会議の活性化を図るため、地域の地区長や協力者などに呼びかけるとともに、利用者には毎回参加を促し、利用者の思いや希望が反映される会議を期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をきっかけに連携が密に図れるようになり、小さなことでも気軽に相談できる関係が築け、すぐに電話などで確認をとるなどして、サービスの向上につなげている。	運営推進会議や町内の介護施設連絡会を通じて、連携を深めている。月1回は事業所が出向き、行政と協力関係を密にしている。自己評価と目標達成計画について、行政担当に助言を求めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、法人内の研修に参加し、研修内容をスタッフ会で共有している。言葉による拘束もしないよう、拘束感のない言葉がけに取り組んでいる。日中は施錠せず、自由な生活ができるよう見守り、寄り添うケアをしている。	外出傾向や転倒の不安がある利用者が3～4割を占めている。新任研修や事業所の研修計画には、身体拘束のないケアを取り上げ、管理者や代表職員が研修に出席して、理解と意識を高めている。職員間とは、伝達研修での情報共有を図っている。昼間は玄関の鍵、窓の鍵は施錠していない。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内の虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会などで事例を用いて話し合いを行い、身体拘束をしない、尊厳を支えるケアを提供できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、勉強会を受けた職員が伝達者になり、職員会で周知をしている。入居の折に保証人に説明をしている。現在、1名の成年後見の利用者がある。必要に応じて援助できる体制を確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や契約時に文書を見ながら、時間をかけて質問疑問等は解決できるように説明し、同意を得ている。また随時電話等でも相談を受け付けている。また改定時にも同様に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回設け、苦情や要望はないか確認し、また、ご家族だけで話し合う場も設けている。苦情は事業所にとって宝と考え、改善するように取り組んでいる。家族会で出た問題は職員会、運営推進会議でも取り上げて話し合いをしている。	花見に合わせて家族会を開催し、新規利用者の家族を含め多数の参加を得る工夫をしている。家族だけの意見交換時間も設け、会長、副会長がとりまとめた意見を運営に反映している。新イベントの秋祭りでは家族会にバザーを依頼する等、良好な関係が築かれている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。	管理者は個人面談で職員の意見を聞いているが、今年はケアのマンネリ化対策への意見聴取にも心がけている。備品の要望など、職員から管理者に気軽に意見が言える関係にあり、管理者は法人の管理者会で事業所の要望を伝えている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた法人の勉強会へ参加。 年2回の人事考課を行い向上心が持てるよう働きかけている。個別面談を行いストレスを一人で抱え込まない様支援している。また、法人内にも相談窓口を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開いて、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームとは、毎月勉強会を行っている。外部への研修にも積極的に参加し、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接を行い、不安を軽減できるように努めている。また待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護不安や状況をよく聞き取って把握し、気軽に相談ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや居宅支援事業者などを通じて相談が多く、緊急性のある方については、法人内、外と連絡調整し入居できるように迅速な対応をしている。また、町にも、困っている方の相談、受け入れをしていただくように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の言動や行動からその時の想いを探り、根本にある喜びや不安などを理解するよう努めている。また、一緒に生活することで利用者に教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族にも可能な限り利用者の生活に関わってもらえるように、支援している。また、家族ができることの申し出を受けることも多く、事業所と家族の協力関係のもと、利用者の人生を支えるよう取り組んでいる。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人との関係が途切れないよう、友人に訪問してもらったり、理美容店の利用、地域の行事への参加などの機会をつくり、人との交流の継続を支援している。	5人の利用者が、職員の付き添いで馴染みの理美容店を利用している。月1回、夫が付き添いドライブを楽しむ利用者もいる。敬老会は家族や知人が事業所に集まり、開催している。三嶋祭や姫野々祭へも職員と利用者で出掛け、地域との馴染みの関係を継続している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている	出来ないところは出来る人が補い、お互いに協力しあって生活が出来るように、一緒に過ごせる環境作りや、場面作りを行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族から次の施設入居などの相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	利用者がくつろいでいる時や、入浴時に希望を聞くようにしている。意思疎通の困難な利用者は、表情から汲み取ったり、家族から情報を得ている。	入所時に、アセスメントシートを使って一人ひとりの思いや暮らし方の情報を得ている。把握した利用者の思いや意向は、日々のミーティングで確認し、個人ケアプランチェック表に気づきを記録している。申し送りや職員会で意見交換をし、職員間での情報共有を図っている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人や家族、関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞き取り、共有するように努めている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の行動や小さな動作から感じとり、本人の全体像を把握して本人が出来ることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いを日々把握し、家族の意向は面会時などに聞いて、全職員でモニタリングを実施している。また、担当者を決め、利用者の状況をより詳細に把握し、介護計画の充実に取り組んでいる。	担当制による、抜かりのないアセスメントを心掛けている。利用者や家族と担当職員、計画作成担当者での協議を経て介護計画を作成するが、家族の希望や意見は電話で確認する場合もある。モニタリングは3ヶ月毎に行い、利用者、家族の意見や要望を活かした計画としている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、本人や家族が安心して生活出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をきっかけに地域との関係が密接となり、地域のボランティア、民生委員、自主防災組織などと協力しながら、行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明により、利用者、家族の納得を得て協力医療機関がかかりつけ医となっており、月2回の往診以外にも必要な受診を支援している。専門医の受診も必要によりできるよう、支援している。	入所時に、全員から協力医の往診の同意を得ている。週1回、協力医と法人の訪問看護の健康チェックがある。専門医への受診には、事業所の職員が付き添っている。家族や病院との連絡は口頭で行い、協力医・看護師は医療連携申込表を使い、安全な健康管理に努めている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には小さなことも気軽に相談でき、医療機関との連携もとれており、適切な看護、受診ができるよう支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際には職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って事業所で対応できるケアについて家族に説明し、同意を得ている。緊急時は、協力医の往診もあり、法人内の看護師の協力も得ている。研修会にも参加し、体制整備を図っている。	入所時に、看取りの指針に沿って利用者と家族の意向を確認している。重度化した際に事業所の出来るケアを説明し、同意を得ている。職員の年間研修計画に看取り介護を取り入れ、職員の研修には力を注いで、体制を整えている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、対応方法を身に付けたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行い、緊急時に対応できる実践力を身に付けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震の避難訓練を年3回以上消防署の協力を得て実施している。その他にも風水害なども含め、自主訓練を行っている。避難訓練には地域の方にも声をかけ協力を得ている。	避難訓練は、消防署の協力を得て年3回実施しており、数名の住民参加があった。風水害の自主訓練は3回行実施した。消防署の指導を受け、今年は夜間帯の訓練を計画している。避難ルートをフロアに掲示し、実践に結び付く工夫をしている。飲料水、食料等は、3日以上を備蓄している。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でもプライバシーや尊厳を損ねるような声かけをしないように話し合い、徹底している。	法人の内部研修や外部研修でプライバシー保護の研修を管理者か代表職員が受講し、ケアの振り返りを行っている。日々のケアで語調が高くなり不適切なケアと気づいた時は管理者がその場で声掛けをしている。利用者の呼び名は原則、姓で呼ぶ様にしている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースを大切にし、畑仕事や散歩など希望に沿ってやりたいことを行ってもらえるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向に任せており、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。自分で決めにくい利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士による献立だが、利用者の希望や庭で育った野菜など収穫した旬のものを使用し、献立を変更することもある。利用者は下準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。	献立は法人の栄養士が立て、食材は地域の店の宅配を利用している。利用者の希望に沿って季節の食材を活用し、食事を楽しんでいる。利用者と職員で下準備や後片付け等を一諸に行ない、会話が弾むひと時になっている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない利用者には、捕食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、管理栄養士とも相談して食の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操や、毎食後の口腔ケアなどを行い、ケアに努めている。口腔ケアは、本人の力に合わせて確認し、援助するようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の有無に関わらず、日中はトイレ誘導を基本とし、排泄パターンを把握して、職員が見守りながらトイレでの排泄ができるよう、支援している。	一人ひとりの排泄パターンを把握し、昼間はトイレでの排泄が基本だが、リハビリパンツにパットを使っている者もいる。布パンツ利用者は3人いる。夜間はポータブルトイレかセンサーマットで排泄の行動を把握し、ケアに役立っている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や、家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿い、体調に留意しながら入浴を支援している。入浴拒否のある利用者も、時間や日程の変更など行い、無理なく入浴できるよう支援している。	毎日でも入浴できる準備をしている。平均すると、2日に1回の入浴頻度となっている。入浴を好まない利用者には、声掛けの工夫で入浴を促し、入浴する場合もある。排泄の失敗時には入浴や部分浴をするほか、最低4～5日に1回は入浴をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お天気の良い日は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはお茶などを提供しながら話を聞き、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生きがいに繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、毎日、事業所周辺を散歩している。気候の良い時期にはドライブに出かけており、歩行困難な利用者も一緒に外出している。	日常的な外出支援としては、晴天の日に事業所周辺を散歩し、近隣の人と挨拶を交わしている。事業所の庭にある畑で、職員と利用者で収穫を楽しんでいる。満天の星や中土佐町の道の駅へドライブしたり、地域の神祭や保育園、小学校、中学校の行事へ職員と参加をしている。	高齢化に伴い、下肢機能の低下が心配される。事業所の取り組みでドライブや他機関の行事の参加等外出の機会はある。今後とも家族の協力を得て外出の機会をつくる事や、日常的な散歩や運動の工夫を期待したい。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が管理しているが、買物や外出時には、本人が直接支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る利用者には、家族に連絡をし、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇には季節の花を植えたり、壁には利用者の似顔絵や職員の顔写真を飾り、暖かい雰囲気を出す工夫をしている。また、ソファやベンチを置き、思い思いにくつろげるようにもしている。	自然環境に恵まれ、空気の澄んだ静かで穏やかな共同空間で過ごしている。食堂兼居間の壁面には塗り絵や小学生が描いた利用者の似顔絵が飾り付けられて、賑やいでいる。ホールにはソファが有り、利用者職員で洗濯物を一諸に畳み、生活感のある工夫をしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関外や廊下や庭に木製ベンチを置き、いつでもどこでも座って会話ができるよう、くつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたタンスやテレビを置き、好みの人形や花を飾ったりしている。壁には孫の写真や手紙、小学生が訪問のとき書いた利用者の似顔絵を貼るなど、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫をしている。	入所時に、利用者の使い慣れた物の持参を勧めている。日勤の職員が清掃して窓を開放し、明るく換気の良い居室である。使い慣れたテレビや筆筒を置き、壁には交流のある小学生が書いた似顔絵や塗り絵を貼り、家族の写真等が飾られるなど、温かみのある居室である。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保しながら自立した生活が送れるように、環境などを整えている。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

ユニット名:やまがら棟

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	理念を行動指針とできるような取り組みが行えるよう、職員会や日々の申し送りの中で話し合い、生かせるように取り組んでいる。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	地域の行事へ参加したり、小・中学生に訪問していただき交流を深めている。中庭の畑づくりを通じて、デイサービス利用者とも交流できている。近所からの野菜等の差し入れもある。避難訓練には地域への声かけもし参加してもらっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居希望者の御家族の方や病院の医療相談員、居宅介護支援事業所からの相談なども受けている。また、地域ケア会議にも積極的に参加している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	内部監査や実地指導等の結果も報告している。会議で出た意見や検討事項については職員会で報告し、検討している。頂いた意見に対しては実行できるように取り組み、次の会で経過報告をしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議をきっかけに連携が密に図れるようになり、小さなことでも気軽に相談できる関係が築け、すぐに電話などで確認をとるなどして、サービスの向上につなげている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	法人全体で取り組んでおり、法人内の研修に参加し、研修内容をスタッフ会で共有している。言葉による拘束もしないよう、拘束感のない言葉がけに取り組んでいる。日中は施錠せず、自由な生活ができるよう見守り、寄り添うケアをしている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人全体で取り組んでおり、研修を実施したり、職員会などで事例を用いて話し合いを行い、身体拘束をしない、尊厳を支えるケアを提供できるように取り組んでいる。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	法人全体で取り組んでおり、勉強会を受けた職員が伝達者になり、職員会で周知をしている。入居の折に保証人に説明をしている。現在、1名の成年後見の利用者がある。必要に応じて援助できる体制を確保している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	申し込み時や契約時に文書を見ながら、時間をかけて質問疑問等は解決できるように説明し、同意を得ている。また随時電話等でも相談を受け付けている。また改定時にも同様に同意を得ている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会を年3回設け、苦情や要望はないか確認し、また、ご家族だけで話し合う場も設けている。苦情は事業所にとって宝と考え、改善するように取り組んでいる。家族会で出た問題は職員会、運営推進会議でも取り上げて話し合いをしている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	個別面談や、職員会、毎日のミーティングなどで意見を聞き、行事や業務改善に反映できるよう取り組んでいる。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の資格取得に向けた法人の勉強会へ参加。 年2回の人事考課を行い向上心が持てるよう働きかけている。個別面談を行いストレスを一人で抱え込まない様支援している。また、法人内にも相談窓口を設けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内で多くの研修を設け、受講できるように取り組み、実務者研修や介護福祉士受験対策講座も開いて、資格取得や職員育成に向け取り組んでいる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人内の他のグループホームとは、毎月勉強会を行っている。外部への研修にも積極的に参加し、情報交換している。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前には必ず面接を行い、不安を軽減できるように努めている。また待機期間中も相談を受けたり、訪問するなどして信頼関係を構築できるよう配慮している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族の介護不安や状況をよく聞き取って把握し、気軽に相談ができるよう努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	地域包括支援センターや居宅支援事業者などを通じて相談が多く、緊急性のある方については、法人内、外と連絡調整し入居できるように迅速な対応をしている。また、町にも、困っている方の相談、受け入れをしていただくように働きかけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	入居者の言動や行動からその時の想いを探り、根本にある喜びや不安などを理解するよう努めている。また、一緒に生活することで利用者に教えられることも多い。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19		<p>○本人を共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族にも可能な限り利用者の生活に関わってもらえるように、支援している。また、家族ができることの申し出を受けることも多く、事業所と家族の協力関係のもと、利用者の人生を支えるよう取り組んでいる。</p>		
20	(8)	<p>○馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>馴染みの人との関係が途切れないよう、友人に訪問してもらったり、理美容店の利用、地域の行事への参加などの機会をつくり、人との交流の継続を支援している。</p>		
21		<p>○利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者が同士の関わり合い、支え合えるような支援に努めている</p>	<p>出来ないところは出来る人が補い、お互いに協力しあって生活が出来るように、一緒に過ごせる環境作りや、場面作りを行っている。</p>		
22		<p>○関係を断ち切らない取組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている</p>	<p>家族から次の施設入居などの相談を受けたりして、継続的な関係を保っている。</p>		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	<p>○思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>利用者がくつろいでいる時や、入浴時に希望を聞くようにしている。意思疎通の困難な利用者は、表情から汲み取ったり、家族から情報を得ている。</p>		
24		<p>○これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>本人や家族、関係者からこれまでの生活歴やサービスの利用状況などの情報を聞き取り、共有するように努めている。</p>		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを理解し、日々の行動や小さな動作から感じとり、本人の全体像を把握して本人が出来ることを見出せるよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	利用者の思いを日々把握し、家族の意向は面会時などに聞いて、全職員でモニタリングを実施している。また、担当者を決め、利用者の状況をより詳細に把握し、介護計画の充実に取り組んでいる。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に沿った実践状況や職員の気づきなどを個人記録に記載し、職員間で共有することで日々のケアに活かしたり、介護計画の見直しに反映させている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々にも生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	医療連携体制を活かし、本人や家族が安心して生活出来るように支援している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議をきっかけに地域との関係が密接となり、地域のボランティア、民生委員、自主防災組織などと協力しながら、行事や防災訓練も実施できている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居時の説明により、利用者、家族の納得を得て協力医療機関がかかりつけ医となっており、月2回の往診以外にも必要な受診を支援している。専門医の受診も必要によりできるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師には小さなことも気軽に相談でき、医療機関との連携もとれており、適切な看護、受診ができるよう支援できている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	利用者入院の際には職員が面会に行き、家族や医療機関と情報交換しながら、速やかな退院支援に結びつけている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りの指針に沿って事業所で対応できるケアについて家族に説明し、同意を得ている。緊急時は、協力医の往診もあり、法人内の看護師の協力も得ている。研修会にも参加し、体制整備を図っている。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	研修に参加し、対応方法を身に付けたり、事業所内でマニュアルを用いた勉強会、実技訓練を行い、緊急時に対応できる実践力を身につけている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震の避難訓練を年3回以上消防署の協力を得て実施している。その他にも風水害なども含め、自主訓練を行っている。避難訓練には地域の方にも声をかけ協力を得ている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護についての取り組みを行い、職員会でもプライバシーや尊厳を損ねるような声かけをしないように話し合い、徹底している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	複数の選択肢を提案したり、簡単に意思表示ができるように工夫するなど、自己決定をしてもらうことを大切にしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者の生活のペースを大切にし、畑仕事や散歩など希望に沿ってやりたいことを行ってもらえるよう、支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	基本的には本人の意向に任せており、見守りや支援が必要な時に手伝うようにしている。自分で決めにくい利用者には、職員と一緒に考えて、本人の気持ちに沿った支援を心がけている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	法人の栄養士による献立だが、利用者の希望や庭で育った野菜など収穫した旬のものを使用し、献立を変更することもある。利用者は下準備や後片付けなどを職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	カロリーや水分摂取量をチェックし、摂取量が少ない利用者には、捕食や嗜好の物で水分補給を行っている。また、管理栄養士とも相談して食の支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	口腔体操や、毎食後の口腔ケアなどを行い、ケアに努めている。口腔ケアは、本人の力に合わせて確認し、援助するようにしている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	失禁の有無に関わらず、日中はトイレ誘導を基本とし、排泄パターンを把握して、職員が見守りながらトイレでの排泄ができるよう、支援している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操や、家事などを通じて体を動かす機会を設けたり、食事や水分摂取量にも留意しながら、自然な排泄ができるように支援している。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	利用者の希望に沿い、体調に留意しながら入浴を支援している。入浴拒否のある利用者も、時間や日程の変更など行い、無理なく入浴できるよう支援している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お天気の良い日は日光浴や活動を促し、生活のリズムを整え、眠れないときにはお茶などを提供しながら話を聞き、安心して眠れるよう支援している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬ファイルを作成し、職員は副作用などについても理解し、適切な服薬支援ができるよう努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	出来ることを把握し、一人ひとりに応じた役割や楽しみが持て、生きがいに繋がるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	天気の良い日は、毎日、事業所周辺を散歩している。気候の良い時期にはドライブに出かけており、歩行困難な利用者も一緒に外出している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	基本的には事業所が管理しているが、買物や外出時には、本人が直接支払いできるように支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話が出来る利用者には、家族に連絡をし、話ができるように支援している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	花壇には季節の花を植えたり、壁には利用者の似顔絵や職員の顔写真を飾り、暖かい雰囲気を出す工夫をしている。また、ソファやベンチを置き、思い思いにくつろげるようにもしている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	玄関外や廊下や庭に木製ベンチを置き、いつでもどこでも座って会話ができるよう、くつろげるスペースを作っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室には自宅で使用していたタンスやテレビを置き、好みの人形や花を飾ったりしている。壁には孫の写真や手紙、小学生が訪問のとき書いた利用者の似顔絵を貼るなど、利用者一人ひとりが居心地良く過ごせる工夫をしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	安全確保しながら自立した生活が送れるように、環境などを整えている。		

ユニット名:

やまがら棟

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目)							
項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)		1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの			○	2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある	64	グループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)		1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある			○	2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)		1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)		1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う		1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが			○	2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				